

アジャイル・プロジェクトマネジメントのアプローチ



アジャイル・プロジェクトマネジメントの理念



アジャイルがひとつの方法論を指しているのではなく、さまざまな方法論を活用できるアプローチであるということに注意する必要があります。

アジャイルでは、人、コラボレーション、および共有価値に基づいた組織モデルを使用します。[アジャイル宣言](#)は、アジャイルの理念について、基本的な考え方を概説したものです。アジャイルは、ローリング・ウェーブ計画法を使用し、反復・漸進型のデリバリーを行い、変化への迅速かつ柔軟な対応をし、チーム、ステークホルダー、顧客間でのオープンなコミュニケーションをとります。

アジャイルの方法論には、スクラム、XP、リーン、テスト駆動開発(TDD)などがあります。

アジャイルの歴史



ソフトウェア開発に、逐次的なプロジェクトマネジメント手法を適用することへの不満から、アジャイルが創出されました。2001年に米国ユタ州スノーバードで、さまざまな課題について議論するために、主要なソフトウェア開発者が会合を開き、最終的に[アジャイル宣言](#)を策定しました。

ソフトウェア業界が必要としていたのは、コストと生産スケジュールに大きな影響を与えることなく変更を可能にする、アジリティ（機敏性）の高い新しい手法でした。

アジャイルの歴史



生産過程を、イテレーションと呼ばれる、簡単・迅速に開発し、テストできる小さな構成要素に分割することで、最終プロダクトの完成前に変更を加えることができるようになります。

現在、アジャイル手法は、ソフトウェア開発のみならず、電気通信、航空宇宙、建設など、さまざまな業界で利用されており、従来の直線的なプロジェクトマネジメント手法とも併用されています。

アジャイルの原則と実務慣行（プラクティス）の例



アジャイルの原則と実務慣行の適用例として、以下があげられます。

プロダクト増分をあらかじめ定義し、反復的にデリバリーすることにより、投資に対して早期で測定可能な利益を得ます。

プロジェクト進捗状況を見える化することにより、問題の早期の特定と解決、または監視が可能になります。

プロダクト開発サイクルの間、顧客から継続的な関与を得ます。

ビジネスオーナーが目標を達成するために必要な意思決定をより適切に行うことができるようになります。

ビジネスニーズの変化に適応し、要求事項の変更に強い影響を与えます。

プロダクトやプロセスのムダを削減します。

アジャイルの原則と実務慣行（プラクティス）の価値



アジャイルの原則と実務慣行を活用している組織は、アジャイルの理念と技法の観点での価値を文書化しています。

ビジネス・ニーズの変化に適応し、組織は、要求事項に対する追加、変更、削除に、より強い影響を与えます。

早くて継続的なフィードバックを顧客から受けることにより、コミュニケーションが改善され、ビジネス・オーナーは、開発プロセスの全期間において、プロジェクトを進めるための意思決定に必要な重要な情報を受け取りレビューすることが可能となることで、より適切な意思決定ができます。

投資に対して、早期で測定可能な利益を得ます。

プロジェクトの進捗状況が見える化し、強い影響を与えることにより、問題の早期特定につながります。

プロジェクト終了時のみ完成品のデリバリーを行うのではなく、増分型デリバリーを行うことにより、プロダクトやプロセスのムダを削減します。

PMI-ACP®認定



アジャイルと市場機会



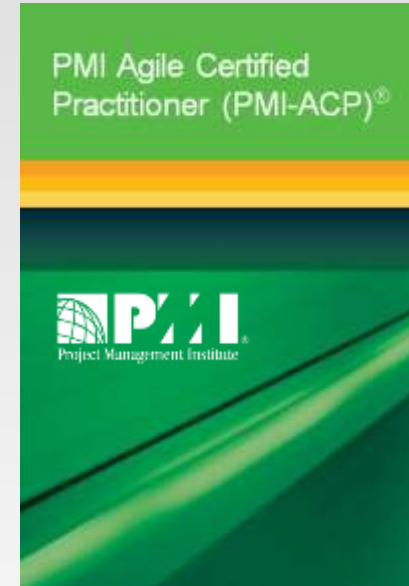
世界中で、アジャイル・プロジェクトマネジメント手法がより多くの組織に受け入れられてきています。

PMIの調査によると、ほとんどの採用責任者が、アジャイル・プロジェクトマネジメントの資格が会社にとって有用であると考えています。さらに、実務者も、アジャイルの資格が彼らのキャリアにとって有益であると考えています

PMI-ACP®認定

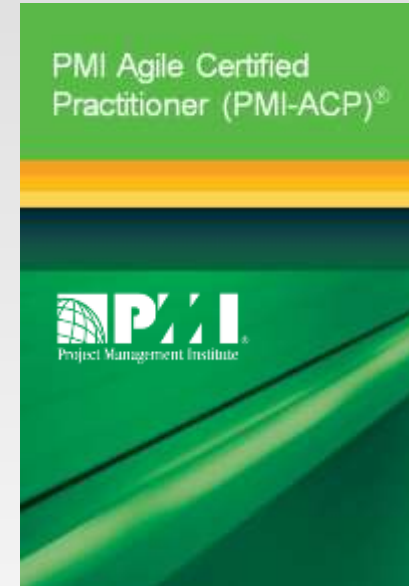
PMI-ACP®は、プロジェクトマネジメント実務者が、グローバルに分散したチーム、変化する要求事項、迅速な対応ニーズなどの、難しい課題がある中で活躍できるように策定されました。

アジャイル・プロジェクト・チームで、指導的立場の人や実務経験のある人、さまざまなアジャイルなアプローチに関する知識を持っている人を対象としています。



PMI-ACP®認定

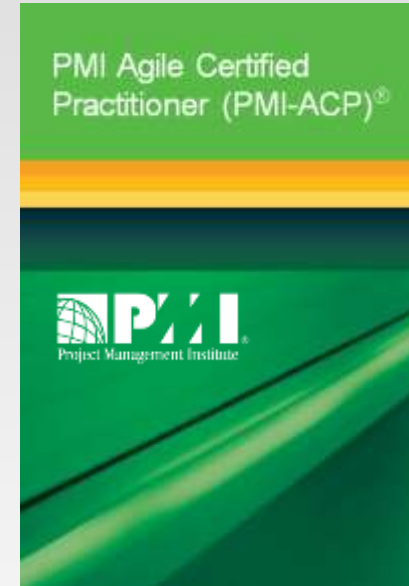
PMI-ACP®認定では、実務者が特定のアジャイル手法の知識を有することを評価するものではなく、スクラム、リーン、カンバンなど、さまざまなアジャイル方法論全体にわたるアジャイルの原則と実務慣行（プラクティス）に関する知識を有していることを評価します。この認定はさまざまな役割（ロール）において有効であり、アジャイルのチーム・メンバーは誰でも受験申し込みをすることができます。さらに、IT業界だけでなく、さまざまなプロジェクトや産業界においても有効であるという点も重要です。なお、PMI-ACP®受験の前提条件として、PMI PMP®認定は必要ではありません。



PMI-ACP®認定

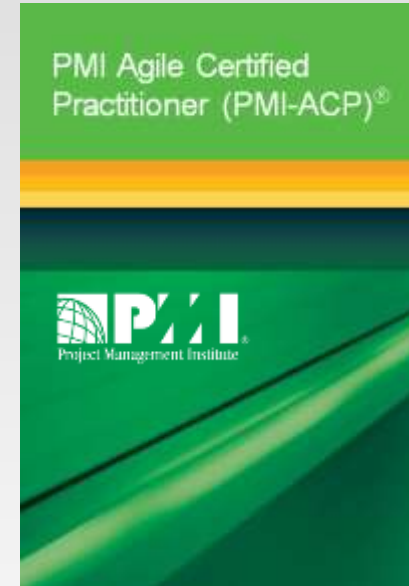
PMI-ACP®認定では、プロジェクトにおけるアジャイル実務慣行（プラクティス）の使用に関する専門知識を有していることを評価しますが、アジャイルのツールと技法に至るまで、増大する多様な専門知識を有していることを証明する必要があります。

また、PMI-ACP®認定は、プロジェクトマネジメントにおける専門能力を示すことについて、より高い信頼性を備えています。これは、アジャイルの原則、実務慣行、ツールと技法に関する試験だけでなく、アジャイルについての教育受講実績およびアジャイル型プロジェクトでの実務経験が認定に必要とされるためです。



PMI-ACP®認定

このグローバル認定は、プロジェクトマネジメントへの多様な方法の適用をプロジェクト実務者に依存している、組織のニーズを満たす個人の活動もサポートします。具体的には、実務者がアジャイルの原則と実務慣行を理解し、適用する能力を検証します。



PMI-ACP®認定のメリット

PMI-ACP®認定を得ることで、実務者にとって強力なプラスの効果をもたらされます。試験やトレーニングだけに基づいている他の認定に比べ、より高い信頼性を備えています。この認定を得ることで、実務者は次のことが可能になります。

アジャイルの原則、実務慣行、ツールと技法に関する、実務者が持つ専門能力の高さを、雇用主に示すことができます。

プロジェクトマネジメントのツールと技法に関して、専門能力の多様性を高めることができます。



PMI-ACP®受験の条件

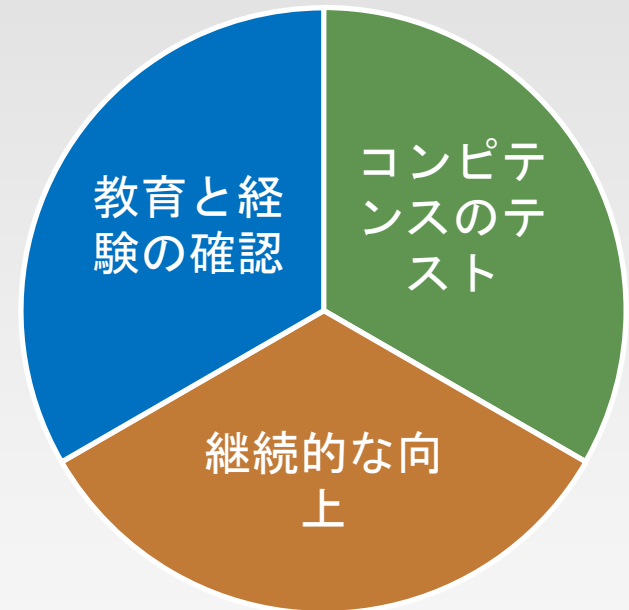
PMI-ACP®認定の受験資格を得るには、下記に示す、学歴やプロジェクト、特定の研修の受講の条件を満たす必要があります。

学歴	一般的なプロジェクト経験	アジャイル型プロジェクトの経験	アジャイル実務慣行（プラクティス）の研修
高等学校卒業、準学士またはそれに相当する資格	直近5年間における、プロジェクト・チームでの2,000時間(12カ月)の実務経験。PMP®またはPgMP®の認定者は、すでにこの基準を満たしているため、追加の実務経験時間は必要はありません。	直近3年間における、アジャイル方法論を使用するプロジェクトチームでの1,500時間(8カ月)の実務経験。これは一般的なプロジェクト経験で要求される2,000時間とは別に必要となります。	21時間のアジャイル実務慣行に関する学習実績(Contact Hour)。

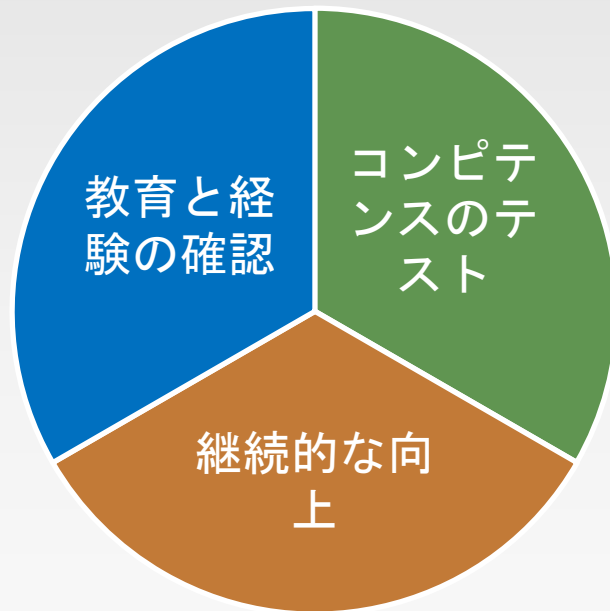
PMI-ACP®認定プロセス

PMI-ACP®認定プロセスは、PMI認定プログラムによって管理されます。PMI-ACP®認定は、この健全なプロセスを利用して策定され、維持管理されています。このプロセスは、さまざまなレベルの学歴と経験を持つ実務者に適合します。受験者は、3つの評価基準を用いたコンピテンシーの審査によりで評価されます。

プロセスの詳細については、PMI Agile Certified Practitioner (PMI-ACP)®ハンドブックを参照してください。



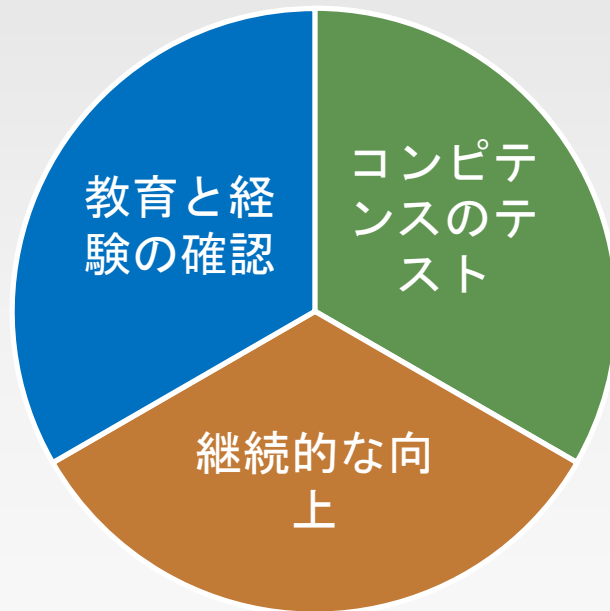
PMI-ACP®認定プロセス



教育と経験の確認

この認定においては、アジャイル実務慣行（プラクティス）についての教育および経験の組み合わせが求められます。

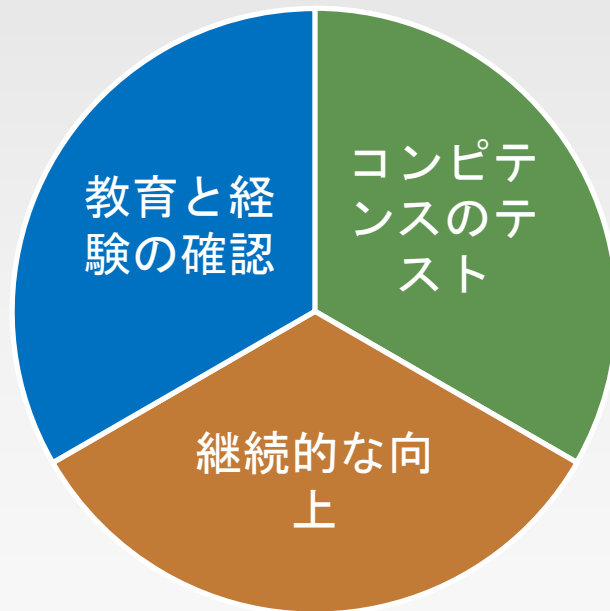
PMI-ACP®認定プロセス



コンピテンスのテスト

受験者は一連のシナリオ・ベースの質問を通して実務環境で起こりうる状況に対してアジャイルの概念と経験を適用することを要求されます。

PMI-ACP®認定プロセス

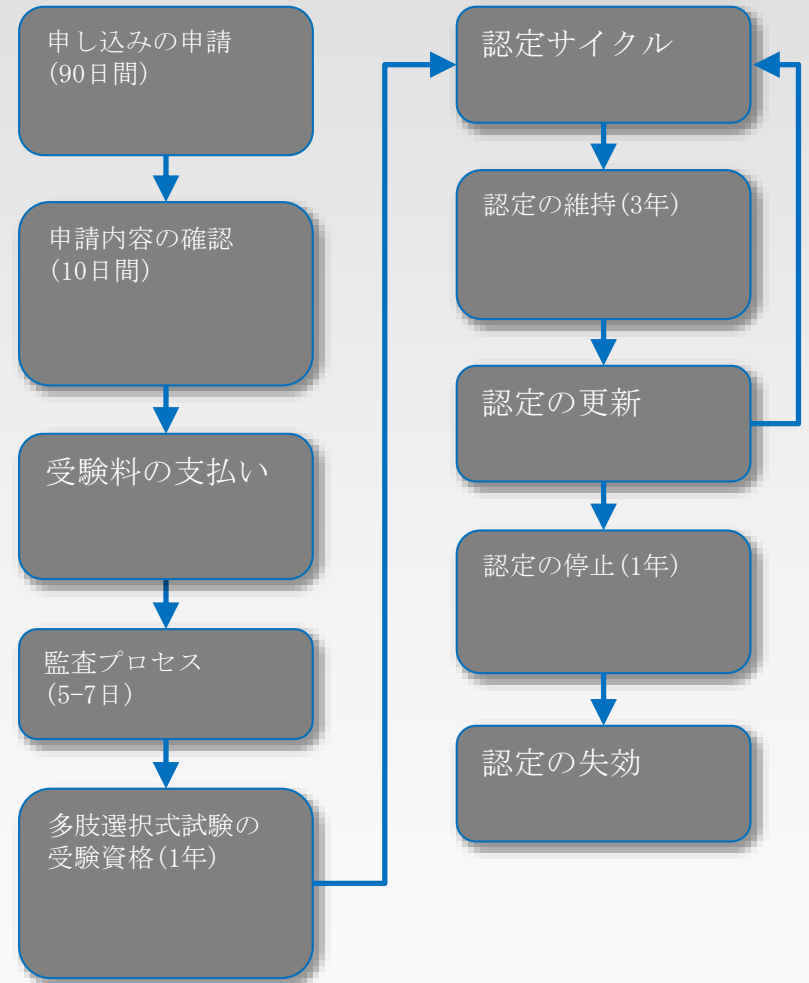


継続的な向上

PMI-ACP®認定の維持には継続的な専門能力の向上や教育が求められます。

PMI-ACP®認定プロセスの流れ

PMI-ACP®受験者は、標準プロセスに従う必要があります。



PMI-ACP®認定試験



PMI-ACP®認定試験は、この認定を得るために不可欠な要素です。アジャイル実務者が使用している実務慣行（プラクティス）、ツール、技法が、試験に正確に反映されていることが非常に重要です。

このためPMIは、試験の基礎となる職務分析を行いました。この役割概説調査（Role Delineation Study）は、認定の策定に使用されており、業界のベストプラクティスに沿っています。この調査結果により、プロジェクトマネジメントでアジャイルのアプローチを使用する場合に必要な、個々のツールと技法の重要度、および、知識とスキルが決定されます。

PMI-ACP®の主要分野とタスク



アジャイル・プロジェクト・マネジャーの役割概説調査は、PMI-ACP®試験問題の作成に貢献しました。

この調査で特定されたタスクは、実務慣行に関する複数の主要分野にまとめられ、[PMI-ACP® examination Content Outline \(試験内容の概要\)](#)に記載されています。試験の各設問は、[PMI-ACP® examination preparation reference list \(試験準備参考文献リスト\)](#)に記載されているテキストなどを参考に作成しています。

受験される方には、学習のガイドとして「PMI-ACP®試験内容の概要」を利用し、参考文献リストなどにあるアジャイルに関する最新の参考文献を勉強することを奨励します。